

●今回は「環境復元と環境創造」、  
広野グラウンドにおける農作業と  
ヒートアップづくりについてレポートします。

タイ・プラナコーン大学での第3回大会の模様▶  
パネルディスカッションにおいて  
谷口教授(左)とデジタル教材を操作する渡邊講師(右)

生が参加。



デジタル教材を使った研究を進める谷口教授と学生▲

本学の谷口文章文学部

教授・人間科学科長が代

表を務める「地球環境と

世界市民」国際協会が、

8月16〜23日、タイ・バン

コクのプラナコーンラジャ

バト王立大学で第3回大

会を開いた。200人規

模となった今大会には、日

本から、谷口教授のほか

も本学文学部の高阪薫

教授、同情報教育研究セ

ンターの渡邊隆俊講師ら

40人余りの研究者や学



開かれた学園を目指して

**KONAN**  
**Interaction**

甲南インタラクシオン

# デジタル教材が結ぶ 世界と甲南大学

「地球環境と世界市民」国際協会第3回大会(タイ)

大会のテーマは「環境倫理と環境教育」。「インタネットによる環境教育の教材開発とネットワークの可能性」と題したシンポジウムをメインに、昨年、郵政省の助成を受けて三菱電機と共同開発した、環境教育に関するデジタル教材も披露された。このデジタル教材は、本学の全学部が参加した「環境教育情報プロジェクト」によつて作られたもので、環境問題の原因分析、大気汚染物質のリアルタイムデータ、奇形ザルに関するレポートなどに加え、環境と文学、医療環境と生命倫理といった環境学と他分野との関係にまで踏み込んだ内容。既に本学の広域副専攻科目(従来の一般教養科目に相当)の「環境学コース」で使用されて

いる。大会では、教材の内容の紹介、環境倫理と環境教育に関するパネルディスカッションとともに、本学、プラナコーン大学、チュラロンコン大学(タイ)をインターネット上でリアルタイムにつなぐデモンストレーションも行われた。「人間、そして、人間が置かれた環境は、時間は数千年単位で、空間は地球規模で考えていく必要がある。今回作成したデジタル教材を、複数の国が共有できる環境教育教材の開発を進めていくことは、環境を地球規模でとらえるために有効な試みといえます。また、その中心に本学が位置することは、本学の国際化にとっても大きな意味を持っています」(谷口教授)